

# INTERVIEW

俳優 大泉洋

## まさに「放課後、みたいな現場でした

### 「アフタースクール」

長編デビュー作「運命じゃない人」が、カンヌ国際映画祭で4賞を受賞した、内田けんじ監督最新作は、30代になった、かつての同級生たちが織り成す「大人の放課後」がテーマ。人を疑うことを知らない男・神野と、人の裏側ばかり見てきた探偵が、神野の親友・木村捜しをするハメに。知られざる木村の一面が次々と明らかになり、思いもよらぬ結末へ…。物語が進むにつれ、登場人物たちが、それぞれ印象を変えていくさまも見どころ。共演はほかに、常盤貴子、田畑智子ら。5月24日（土）から梅田ガーデンシネマほかで公開。



©2008「アフタースクール」製作委員会

映画「アフタースクール」は、笑いと驚きが盛りだくさんで、見る人が、気持ちよくダマされてしまう不思議なエンターテインメント作品。舞台上TV、そして映画へと活躍の場を広げ、この作品では、「人はいいけれど、頑固なまでにまじめな中学教師、を演じた、主演の大泉洋さんに、撮影秘話や仕事に対する思いを聞いてみました。

「甘くみると、ダマされちゃいますよ」。作品のキャッチフレーズ通り、大泉洋さんが演じる主人公の中学教師・神野も、「いい人、なのかなのか最後まで分からず、見終わってもう一度どうダマされたのか確認したくなるほど。「監督からは、見る人によって、どっちにも見える芝居をと言われたんですが、そのサジ加減が難しかったですね」

二転三転する物語を彩るのは、神野に近づく怪しい探偵・佐々木蔵之介と、神野の親友でもあり、探偵に追いかけられる男・堺雅人。舞台出身の俳優が集まった現場では、「もう、待ち時間が全然苦にならないほど、みんなフランクでいい人。僕は、蔵之介さんのファンなので、

昔見た舞台のセリフを披露して、『オレでも忘れていたセリフを、なんで覚えているんだ』と言われたり（笑い）。監督も年が近いから、まさに「アフタースクール（放課後）、みたいな現場でした」。

ももとは「全然興味なんてなかった」という芝居の世界。それが、「何かやるか」と始めた大学でハマったのは、「どこかで試したかったんでしょね、自分を。面白いのかどうかって。高校時代は、照れて人前に出るのを避けていたくらいなのに（笑い）。この映画のことを「トリックアートを見ているようだ」と語る大泉さん。彼自身が、とらえどころのない、笑いで煙に巻くような…!? 不思議な魅力の人でした！

### Profile

1973年北海道生まれ。演劇ユニットTEAM NACSに所属。深夜番組「水曜どうでしょう」で人気は全国区となり、舞台のみならず、ドラマや映画でも活躍。7月には映画「ゲゲゲの鬼太郎 千年呪い歌」の公開が控えている。

